

私は高校二年生で故郷の熊本を離れて、神奈川の東海大相模高校に転校してきました。ですから、もう三三年間、神奈川に住んでいます。私が育ったところは熊本でも本当に山の中でしたから、神奈川というと文化の香りがするというのが最初の強い印象です。来年で横浜港開港一五〇周年ですが、さまざまな文化の風が神奈川から日本に吹いていきました。この雰囲気が好きで、一昨年の四月から神奈川県体育協会の会長になり、もともと好きになった思いがしています。

山下泰裕

(助)神奈川県体育協会会長
東海大学教授

体育協会の会長は、代々県知事が務めておられました。しかし、私がやるからには名誉職では済まないだろう。微力であっても、なんとか多くの人の力を合わせて、神奈川のために働けたらいい。そして、神奈川、日本を少しでもよくしていけたらいいと、そういう思いになりました。そこで、だれでも、どこでも、いつまでもという「Sports For ALL」の考え方を推進しようと四本の柱を立てました。まず、神奈川県から世界に羽ばたく選手を養成すること、そしてスポーツを通して青少年の



健全育成を図ること、さらに性別や年齢、障害の有無にかかわらず、だれもがスポーツに親しめる環境をつくること、最後はスポーツ活動を通じて環境に配慮した活動を実践するという四本の柱です。

そして、県の競技団体と市町村の体育協会、中体連、高体連、こういうところの人たちに

と、いまの子供はコートの中のフェアプレー、グラウンドの中のフェアプレーしか考えていません。いま非常に大きな社会問題になっているいじめの問題があります。大勢で一人をいじめる。強い者が弱い者をいじめる。これは日本人がもともと嫌った卑怯なふるまいです。残念ながら、この卑怯なふるまいが非常に増えてきています。それに対してスポーツ界でなにか活動ができないか。たとえば、サッカーをやっている子供がクラスでだれかがいじめられているのを見た。「おい、やめようよ」と声を掛ける。彼らがそういうことも大事にする。グラウンドだけではなく、日常生活の中でフェアプレー、スポーツマンシップを発揮していく。そうなれば、いじめの雰囲気が変わってくるのではないかと。

そこで、昨年三月の神奈川県体育協会の理事会・評議会でも、もう一つの社会貢献というところで、いじめ防止への取り組みを提唱し、五月には緊急集会を開きました。

集まっていた代表者会議を開き、こういう目標を掲げてやっていきたいと思うとお話して、全員から賛同をいただき、いま、この問題に取り組んでいます。

もう一つ、私は、スポーツが一番大事なものはスポーツマンシップ、フェアプレーの精神だと思っています。しかし、どちらかというと

加盟競技団体、教育団体の方が集まってくださって、非常に盛り上がった会議になりました。まだ取り組みを始めたばかりですが、スポーツを愛し、神奈川を愛し、神奈川の発展を願う多くの人たちと手をつないで、ぜひ、この運動を成功させ、神奈川から日本にそういう風を吹かせていきたいと思います。